

北上市総合計画 2021～2030 令和6年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和5年度）

基本方針	1.すべての人が活躍できる環境づくり
基本施策	3-1.生涯にわたる豊かな学びの場づくり
関連するプロジェクト	3.地域をつくる文化芸術・スポーツプロジェクト

活発な市民活動や充実した文化施設、豊かな自然及び伝統的な文化等、本市独自の資源を最大限に活用し、市民が生涯にわたって活躍できる生涯学習環境の形成を推進します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

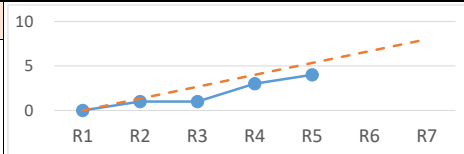
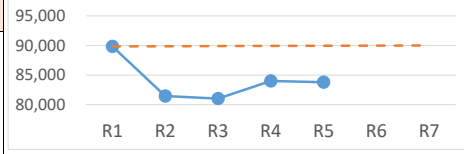
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

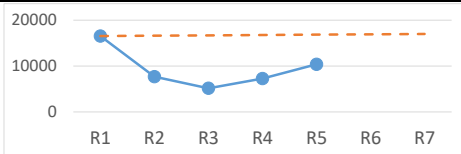
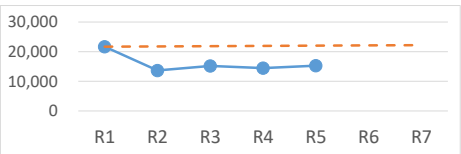
R6事後
5

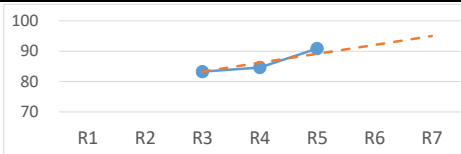
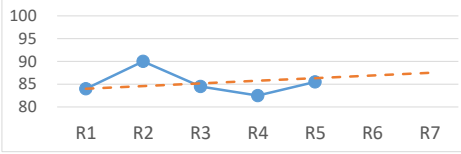
No.	担当部等	プロジェクト	推進方針	成果指標	達成状況(対象:R5) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評 価	達 成 状 況 分 析 (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R6に着手予定・着手済み ◆:R7以降の着手を検討)
							内部要因	外部要因	
1	企画部		市史編さん事業の推進	①	・「資料編近世」を当初計画とおりのスケジュールで刊行した。 ・「通史編1 先史・古代・中世」は来年度の刊行が難しくなったため、基本計画(刊行年度)を変更した。	B (B)	・「資料編近世」は校正に想定以上の時間がかかり、途中で作業に遅れが生じたが、内部調整を行い予定どおり刊行することができた。 ・「通史編1 先史・古代・中世」は資料編の刊行が遅れたことにより、原稿執筆の準備が計画どおりに進まず、刊行を令和7年度に変更した。	予想以上に執筆者と業者の校正や原稿提出等に時間がかかり、スケジュールどおりに進まないことが多かった。	◇「資料編近代」、「資料編現代」、「特別編民俗」の刊行に向けて校正等の作業を進めている。令和7年度刊行予定の「通史編1」も原稿の入稿に向けた準備を順次行っている。 ◆基本計画に基づき刊行に向けた準備を進める。(令和7年度:1冊)
					市民大学の2講座(近世・自然)を担当し、市史のPRをした。(2講座の参加者:延べ144人)		付帯事業に合わせて、市史のPRができた。 生涯学習文化課と連携して実施することができた。	自然分野の講演では、市史に掲載されている内容での講演であったため、市史のPRにつながった。	
2	まちづくり部	●	多様な社会教育への対応	②③	・出前講座の参加者が令和4年度と比較し、3,099人増加したが、期待値を大幅に下回っている。 ・市民大学の参加者にアンケート調査を行った結果、講座の内容を理解できたと回答した人の割合が9割以上であった。	B (B)	出前講座については、HPやパンフレット、更には各地区交流センターで実施された説明会などを利用し、講座内容について、市民へ周知を図った。 市民大学については、話題のアートや子育てに関する講座を取り入れたことで、参加者の増加につながった。また、講座内容が重複しないように幅広い分野の生涯学習事業の講座を開催した。	新型コロナウイルスの影響により減少した各自治公民館等での社会教育活動が、従前のレベルまで戻っていない。	◆出前講座については、人気のある分野の新たな講座創設の検討、HPやパンフレットでの周知のほか、デジタルサイネージを活用した講座の申し込み方法の周知などを実施していく。 ◇市民大学の10回講座とは別に若年層向けのセミナーを企画する予定となっている。
					各地区交流センターにおいて、地域の特色にあった生涯学習事業を推進した。		地区交流センターの生涯学習推進員向けに、地域づくりにおける福祉的課題についての研修を開催し、16地区で計17名の職員が参加した。	地域づくり組織が行う生涯学習事業は、地域の特性に応じた生涯学習事業を実施し、昨年度に比べ参加者が増加している。	
3	教育部		読書習慣の定着化	④	図書館においては、生涯における読書の習慣の基礎となる幼少期(子育て期)から本に親しむきっかけとなる機会の提供、家庭環境の違いなどによらない読書習慣の定着を図るとともに、読み聞かせや、お話し会の事業を推進する。	B (B)	子どもを対象とした事業を次々と行い、絵本の貸出数は回復傾向にある。	施設内機器の改修工事に伴う臨時休館措置の期間が増加し、開館時間が減少した。 絵本を利用する子どもの総数・出生数自体が少しずつ減少している。	◇子どもを対象とした事業を中心に、利用増に繋がる事業や展示を実施する。また、幼児向け絵本の購入冊数維持に引き続き力を入れ資料収集と整備を行う。
					入館者数は178,316人で、令和4年度と比較して増加している。(令和4年度:175,214人。)		子どもを対象とした事業や展示を行い、貸出の冊数及び期間を正式に変更し対応してきたことにより、貸出点数、入館者数はコロナ禍前の数に復調しつつある。	家族単位での来館者が多く見受けられるようになった。子どもが自分で選書し、興味や関心を伸ばせる環境が戻ってきた。	
4	教育部	●	親しみがもてる社会教育施設へ	⑤	【図書館】小中学生(7～15才)の貸出は175人減少。 【博物館】小中学生の入館者378人増、団体利用数は1.5倍(どちらも前年比)となっており、新型コロナウイルス感染症流行前のように校外活動が再開され、またその場として博物館を利用いただいたと考えられる。 【鬼の館】小中学生の利用者数は、前年度より640人増加した。	B (B)	【図書館】子どもを対象とした事業を次々を行い貸出数は回復傾向にある。 【博物館】本館、分館とも、夏の企画展を小学生向けの展示を中心としたことで狙い通り来館者の増加につながった。 【鬼の館】小学生を対象とした事業やイベントを開催したことが利用者数の増加につながった。	【図書館】施設内機器の改修工事に伴う臨時休館措置の期間が増加し、開館時間が減少した。 【博物館】新型コロナウイルス感染症流行前のように校外活動が再開され、またその場として博物館を利用いただいたと考えられる。また、コロナの5類移行により、外出することへの抵抗がなくなったことで、家族による来館、学校の学習活動としての来館も再開された。 【鬼の館】小学校の社会科見学、修学旅行の利用が増加した。	【図書館】 ◇学齢期前の幼児期を中心に、図書館を利用する機会を提供し、安心して利用できる施設と資料の維持を継続する。 【博物館】 ◇郷土の歴史・文化の情報を調査研究・発信するとともに、収蔵品管理システムの運用、デジタルアーカイブ化の実施などを進め、DXにつなげていく。 ◆令和6年度導入の収蔵品管理システムを活用して、スマートフォンのアプリを使った多言語化への対応、収蔵品情報の発信を進め、より多くの人が北上の歴史や自然を学べる機会の提供を検討していく。 【鬼の館】 ◇収蔵管理システムを新たに導入し、誰もが鬼の館にアクセスできる環境を整備する。 ◆常設展は開館から30年間変更していないため、近年の展示方法や映像の更新など、リニューアルに向け検討する。
					また、豊かな資料の収蔵、保存を行うと共に、博物館においては、若年層にも興味をもてる常設展示の工夫、企画展の魅力向上を図り、あわせて、博物館分館による自然科学系の事業も推進する。また、鬼の館においては、芸能公演や講座を実施し、民俗芸能の保存と次世代への継承を推進する。 更に、常に最新の郷土の歴史・文化の情報を研究・発信し続けることにより、社会教育施設の利活用を通して、郷土の歴史・文化に対する興味関心を深め、シビックプライドの醸成につなげる また、施設自体の魅力向上を図り、各館の周年事業に向けた取り組みを進める。		【図書館】入館者178,316人(前年度比3,102人増) 【博物館】本館9,107人(前年度比1,566人増)、和賀分館3,382人(昨年度比581人増)が来館した。 【鬼の館】28,298人が来館した。また、鬼剣舞公演には2,059人、大乗神楽大会には156人の見学者が来館した。	【図書館】コロナ期は大人の利用が中心だったが、家族連れの来館者や生徒単独の利用も見受けられるようになった。 【博物館】さくらまつり期間中の展勝地周辺の人流が回復したこと、みちのく民俗村まつりでの連携をはじめ、民俗村とセットで見学する導線が生まれ、入館者の増加につながったとみられる。 【鬼の館】民俗芸能公演や講座、企画展事業を通年通り開催し、市民が民俗芸能の鑑賞や鬼の知識を得られ、シビックプライドの醸成が図られた。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針		成果 指標	達成状況(対象:R5) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評 価	達 成 状 況 分 析 (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R6に着手予定・着手済み ◆:R7以降の着手を検討)
								内部要因	外部要因	
5	教育 部		社会教育 施設の来 館者サー ビス向上	令和5年に博物館開館50周年、令和6年度に鬼の館開館30周年を迎えるなど、各施設が建設から時間が経過し老朽化が進んでいる。今後は来館者サービスを向上させるような展示内容や設備の更新に取り組む。 また、小中学生、若年層、障がい者、外国人来館者向けの解説コンテンツを充実すると共に、特別展、企画展、民俗芸能公演の実施など、市民に新たな学びの機会を提供し、博物館・鬼の館の魅力向上を図る。	⑥	【博物館】アンケート回答者の満足度は高い値(93%)を示している。 【鬼の館】アンケート集計結果は、満足度が前年度より約2%増加した。	B (B)	【博物館】北上の歴史や自然に興味を持ってもらえるよう本館、分館共、企画展、特別展の開催を継続した。 【鬼の館】職員による常設展示の解説や、幼児から小学生を対象とした教育普及シートの配布を実施した。	【博物館】コロナ流行下でも感染予防につとめイベントを開催した。 【鬼の館】アニメを機会に、鬼への興味関心が高まっている	【博物館】 ◇来館者、特に市民に興味をもってもらえる特別展、企画展等を実施し、学ぶ機会の創設を図る。 ◇本館屋根改修工事等設備の修繕を進める。 ◆和賀分館空調改修工事、照明改修工事を進め適切な資料保管の環境を確保していく。 【鬼の館】 ◇魅力的な企画展、民俗芸能公演を継続して開催していく。 ◇開館30周年事業を実施中。 ◆老朽化した展示機器を更新する。
						【博物館】開館50周年を記念し、記念式典、記念シンポジウム等を開催、関連する特別展も実施した。また本館の受電設備を更新し、文化財等の管理をする上での安全を確保した。 【鬼の館】企画展や民俗芸能公演を通年通り開催し、鬼の館の魅力を伝えることができた。		【博物館】50周年という節目を捉えて、当市の50年を振り返る特別展等を開催したことで、北上の歴史に興味をもってもらい、学びを広げ、深めるきっかけにすることができたのではないかと考えている。 経年劣化している設備等が多くなっており、更新等、適切な対応を進めている。 【鬼の館】市民の成果を発表する企画展や、企画展図録を刊行した。	【博物館】博物館法が改正で、博物館が文化観光に資することが求められており、これを受けて、フィールドとのつながりを考える国見山廃寺と北上川舟運のシンポジウムを開催した。	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明										
市史の刊行(全10冊のうち8冊)		計画(全10冊)に基づく刊行										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
企画部	冊	実績値	0	1	1	3	4					
		期待値 ※R7は目標値	0.0	1.3	2.7	4.0	5.3	6.7	8.0			
		備 考								累積		
指 標 ④		指標の説明										
絵本の貸出数		生涯の読書習慣の基礎となる幼少期から、本に親しむことが重要と捉え、その対象となる絵本の貸出数を指標とする										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
教育部	冊	実績値	89,842	81,444	81,020	84,006	83,799					
		期待値 ※R7は目標値	89,842	89,868	89,895	89,921	89,947	89,974	90,000			
		備 考										
指 標 ⑦		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										
指 標 ⑩		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										
指 標 ⑬		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										

指 標 ②		指標の説明										
出前講座参加者数		出前講座に参加した人数										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
まちづくり部	人	実績値	16,545	7,678	5,154	7,291	10,390					
		期待値 ※R7は目標値	16,545	16,621	16,697	16,773	16,848	16,924	17,000			
		備 考										
指 標 ⑤		指標の説明										
社会教育施設(図書館、博物館、鬼の館)の小中学生利用者数		【図書館】 図書館システムより年齢別延べ貸入数を抽出 【博物館】 博物館日計表で集計している年度ごとの小中学生利用者数 【鬼の館】 小学校1年生～中学校3年生までの子どもの入館者数を合計したもの。有料、無料すべて含めた人数										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
教育部	人	実績値	21,691	13,667	15,202	14,444	15,287					
		期待値 ※R7は目標値	21,691	21,776	21,861	21,946	22,030	22,115	22,200			
		備 考	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 17,134人 博物館 1,890人 鬼の館 2,267人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,237人 博物館 1,859人 鬼の館 1,571人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 11,238人 博物館 1,912人 鬼の館 2,052人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,592人 博物館 1,521人 鬼の館 2,331人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,417人 博物館 1,899人 鬼の館 2,971人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 17,500人 博物館 2,000人 鬼の館 2,700人				
指 標 ⑧		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										
指 標 ⑪		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										
指 標 ⑭		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										

指 標 ③		指標の説明										
市民大学等受講者の理解度(R3年度からアンケート項目に入れる)		市民大学等受講者へのアンケート結果で講座内容を理解できたと答えた人の割合										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
まちづくり部	%	実績値	-	-	83.26	84.63	90.85					
		期待値 ※R7は目標値	-	-	83.26	86.20	89.13	92.07	95.00			
		備 考			項目設定							
指 標 ⑥		指標の説明										
来館者アンケート満足度(博物館、鬼の館)		博物館】 博物館の来館者に対して実施しているアンケートにおける満足度が高い割合 【鬼の館】 入館者を対象にしたアンケートのうち、「面白かった」と回答した人数の割合										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
教育部	%	実績値	84	90	84.5	82.5	85.5					
		期待値 ※R7は目標値	84	84.6	85.2	85.8	86.3	86.9	87.5			
		備 考	【内訳】 博物館 91% 鬼の館 77%	【内訳】 博物館 95% 鬼の館 85%	【内訳】 博物館 96% 鬼の館 73%	【内訳】 博物館 90% 鬼の館 75%	【内訳】 博物館 93% 鬼の館 78%	【内訳】 博物館 95% 鬼の館 80%				
指 標 ⑨		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										
指 標 ⑫		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										
指 標 ⑮		指標の説明										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										
		期待値 ※R7は目標値										
		備 考										